

看護学同窓会便り No. 7

平成23年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7947
同窓会事務局 浦田

会長あいさつ

会長：下田 澄江

長崎看護学同窓会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしの事と思います。

今年3月11日、三陸沖を震源として発生した東日本大震災は最大震度7、マグニチュード9、最大津波高さ40.5mと未曾有の大災害となりました。さらに地震と津波により福島第一原子力発電所事故が発生し、放射線物質漏れによる汚染が深刻な問題になっています。皆様とともに被災地の一日も早い復興を祈念したいと思います。世界中からも多大のご支援が寄せられているところですが、その中で同窓生も長崎大学医療支援チームのメンバーとして支援活動に参加して活躍されていますので同窓会便りでご紹介します。

今年9月20日、長崎大学病院は開院150周年の記念式典が開催されました。式典では西洋医学発祥の地としての貴重な記録の紹介とともに、150年を経て現在まで地域医療の中核施設、教育研究施設として立派にその中心的役割を担える施設として発展を遂げてこられた数々の業績・成果が報告されました。この歴史的発展を支え、築きあげてこられた方々に同窓会としてもお祝いを申し上げるとともに、ご苦労に感謝申し上げます。

さて長崎看護学同窓会も今年で108年目になります。同窓会は看護教育の発展と実習施設としての病院や臨床における看護の歴史とともに歩んできたことと思いますが、残念ながら記録として残された資料はあまり多くないようです。その中で医学関連文献や原爆で焼失をまぬがれた数少ない記録の中から苦労してまとめられた元長崎大学医療技術短期大学部教授故河本令子著「長崎の看護教育のあゆみ」(1991年発行)に長崎における看護教育の歴史とともに看護についての貴重な記録が残されていますのでご一読いただければと思います。河本教授は著書の中で「長崎における看護教育の歴史は前述したとおり、比較的古いにもかかわらず、その歴史についてはまとまったものがなく、また資料も乏しい。…中略 今後の充実した史実の研究を期待したい。」と述べられていますが、将来この河本教授の願いが何らかの形でかなえられることを期待したいものです。

平成23年3月には保健学科看護学専攻6回生が卒業、大学院保健学専攻(修士課程)も4回生が修了となりました。毎年卒業時に全員同窓会に入会をいただき感謝しております。

長崎看護学同窓会では「継承そして発展」の理念に基づき同窓会事業をさらに推進していくために平成23年3月25日同窓会ホームページを開設しました。看護学奨励賞の案内をはじめ、今後さらに同窓会活動報告や内容の充実を図るべく準備を進めているところです。長崎を遠く離れてご活躍されている会員の皆様や地元でいつもご支援いただいている方などの積極的な同窓会の皆様の投稿もお待ちしています。

11月23日の総会には多くの会員の皆様にご参加いただき、相互の親睦を深めていただきたいと思います。皆様にお逢いできることを楽しみにしております。



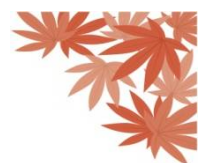
平成22年度庶務報告

- 平成22年度入会者 83名
平成23年度入会者 83名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成22年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - ホームページ開設の準備
 - 慶弔
 - 3月23日 医学部保健学科卒業式:生花寄贈
 - 原爆慰霊祭に下田会長献花:生花寄贈
 - 物故者へ弔電
 - 看護学研究奨励賞運営
 - 同窓会だよりNo.6発行

同窓会員数

総数	3,477名
養成所	319名
厚生女学部	149名
看護学校	1,332名
医療短大	1,201名
保健学科	465名
修士課程	11名

平成23年9月20日現在



物故者ご氏名

お知らせ頂いた方を掲載しております。
看護学校 8回生 原口佐和子(旧姓 石本)
平成23年1月26日
看護学校13回生 道祖尾彰子(旧姓 大森)
平成23年4月8日

保健学科、保健学専攻(修士課程)の報告

＜保健学科看護学専攻6回生の進路＞

平成23年3月、看護学専攻6回生81名が卒業し、県内外の保健医療機関に80名が就職しました。長崎大学病院に33名、それ以外の長崎県内に7名、九州地区26名、関東地区12名、中国地区1名、東海地区1名でした。職種は3名が保健師、助産師は9名、67名が看護師として採用されました。1名は進学でした。

＜長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻(修士課程)4回生修了＞

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻(修士課程)看護学講座では23年3月に4回生4名が修了いたしました。保健医療の現場そして教育機関へそれぞれ就職し、今後のご活躍を期待したいと思います。

卒業生近況報告

保健学科5回生 次原 詩乃(勤務先: 渚レディースクリニック)

正常分娩をメインに扱う渚レディースクリニックで助産師として働きはじめて2年目になりました。まだまだわからないことやできないことだらけで、常に勉強させてもらいながら働いています。

産婦人科は新しい命が生まれる場所。もちろん辛いことや悲しいこともさまざまありますが、それでも可愛い赤ちゃんに囲まれて仕事ができることや妊娠・分娩という人生の大きなイベントに関わらせてもらえることなど、本当に幸せに思います。

分娩は大きな出来事ですがそれだけにとどまらず、妊娠前や妊娠中からの関わり、育児へのつながりということも重要です。それ以外にも助産師は性教育や流産・不妊の方へのケア、更年期のケアなどできることは多くあります。すべての女性のどんなライフステージにおいても頼りになる助産師となれるようこれからもがんばってまいります。



平成23年度看護学研究奨励賞受賞者ならびに次年度募集について

看護学奨励賞につきましては、ここ数年途切れることなくご応募いただくようになり、みなさまのご協力に感謝申し上げます。本年度は2題の応募があり、選考の結果2題とも採用が決定しました。総会では授賞式とともに、これまでに授賞された4題の研究発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

＜本年度受賞の研究課題＞

- ①臨床看護師が体験している倫理的問題の実態及びその認識
小川 和美(長崎大学病院)
- ②地域に根ざした遺伝カウンセリング体制構築に向けての検討
佐々木規子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻)

＜総会での発表予定演題＞

- ①臨床看護倫理国際比較調査票Version IIによる比較文化的研究
山口 智美(長崎大学医歯薬学総合研究科保健学専攻)
- ②特定機能病院における認知症高齢者の看護の実態
小淵 美樹子(長崎大学病院)
- ③看護師の急変対応自己評価尺度の作成と妥当性の検証
永富 礼二(長崎大学病院)
- ④当院ICUにおける看護実践能力習熟評価システム構築に関する研究
川上 悦子(長崎大学病院)



☆次年度の募集も例年通り行いますので、ご応募いただきますようご案内申し上げます。応募期限は平成24年6月20日～7月20日の予定です。応募要領、申請書など詳細については下記までお問い合わせ下さい。
問い合わせ先: 勝野久美子(長崎北病院 Tel 095-886-8700 e-mail: kita_k_katsuno@shunkaikai.jp)

長崎大学病院150周年記念事業

看護部長 田添京子

長崎大学病院が産声を上げて、今年で150歳を迎えます。150年前の9月20日、オランダ人医師ポンペにより、日本で初めて124床のベッドを備えた西洋式の近代的な病院が長崎に誕生しました。これがまさに現在の全国各地にある大学病院の先駆けでした。150年の歴史には、苦難や復興の歴史もあります。1945年原爆投下によって大学病院は壊滅しましたが、永井隆博士、久松シノ元看護部長など多くの先輩諸氏の努力で営々と歴史は引き継がれ、今があります。長崎大学病院の歴史を支えて頂いた地域の皆様への感謝を込めて、また職員同士の結束のため、今年には多くの記念事業を開催しました。看護部は、伝統ある裏千家永井社中のご指導のもと、格調高くお茶会を開催させていただきました。医学部作動部の皆様も応援にかけつけてくださり、これからの医療を担う若者たちとの交流も意義あるものとなりました。14年の長きにわたり、陰になり日向になり大学病院を支援して下さっているボランティアさんにもお手伝いいただきました。

これからも私たちは多くの皆様のお力をお借りしながら、より良い医療、看護を提供できるよう努力してまいります。150周年の今に生きる私たちには、歴史を継承し、後世に残すものがより良いものであるよう努力し、次世代へバトンをつないでいく義務があると思っています。病院再整備で長崎大学病院が姿を変えていしつつある今、特にそれは大切なことに思えます。

150周年記念式典
平成23年9月20日

記念お茶会
平成23年6月11日



研修医新人看護師合同研修会
平成23年6月18日

150周年記念大運動会



東日本大震災における長崎大学病院の支援活動について

災害発生と同時に間髪を入れず、岩手県遠野市や、福島県福島医科大学病院への被爆者支援、福島県南相馬市への地域医療支援などに、のべ26名の看護師を派遣しました。派遣にあたっては文書で志願者を募集しましたが、危険地域にも関わらず多くの志願者があったことは感謝の一言でした。派遣した看護師の被災地での勇気ある行動が、被災地の医療職、看護職に勇気を与え、表情まで変化させたという嬉しい報告も耳にしました。同行した医師が看護職の働きに非常に助けられたと口々に評価して下さり、現地でのチームワークは相当なものだったことがうかがい知れます。派遣者による院内活動報告会も数回開催され、支援活動を皆で共有することができました。

今回の出来事は、社会の中での医療職、看護職の役割をあらためて考える機会にもなりました。これからも全国の多くの看護職が復興に貢献していられることと思います。

皆様のご健康とご活躍を願ってやみません。

看護部長 田添京子

東日本大震災支援活動報告

長崎大学病院 橋口

文科省の要請を受け3月13日に長崎を出発し、千葉の放射線医学総合研究所へ行き翌日14日には自衛隊のヘリにて福島入りした。3月16日に原発から傷病者発生との連絡がありヘリ要請となった。この日からは、福島県立医科大学附属病院の一室をお借りしてチーム5人の寝泊りが始まった。今、自分たちが行うべきことは何かを考え意見を出し合い行動することでチーム一丸となって活動することができた。重症傷病者が搬送されてくることを想定して行っていたシミュレーションが今では、福島県立医科大学附属病院のスタッフを中心に進行しており、外部放射線量がどのくらいかGM計数管やNaIシンチレーションなどで測定していたことが今でも毎日同じ場所で測定されている。福島原発に関連した課題はまだ多くあり、放射能・放射線に対する不安は福島県民だけではなく日本全体に広がっている。この派遣で得た知識を不安を感じている人たちに活かすことができればと思っている。

長崎大学病院 張川 恭子

私は南相馬市へ“屋内待避・自主避難地域に居住している方々へ医療サービスを提供する”という趣旨の下、4/11～16まで医療支援活動に参加しました。私がこの地域へ派遣された当時、自主避難地域となっている事もあり住民と共に多くの医療従事者、介護サービス提供者も避難してしまい医療・介護を含む様々な経済活動が滞ってしまっている状況でした。そのような状況であったため自宅退避の方々の巡回診療を行ってききましたが、中には持病があるにも関わらず震災以後病院を受診でききていない方、清拭など保清ケアが全く行われていない方、褥創を形成・悪化させてしまっている方などがおられました。しかしこの地域は原発問題もあり各支援の手も他の地域に比べ少なく、医療支援に関しては長崎からの支援チーム以外に遭遇する事はありませんでした。

未だに原発問題は解決していませんが一日も早くこの地域の方々の元へ安心できる日常生活が戻ってくる事を祈っています



編集後記:今回は開院150周年記念事業や東日本大震災支援活動に関する事などお伝えしたい事が特に多く、盛りだくさんな同窓会便りとなってしまいました。今後も可能な限り色々な事をご報告していきたいと考えておりますのでご一読いただければ幸いです。(医短10・張川恭子)



平成23年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 下田 澄江	看学20	
副会長 浦田 秀子	看学21	医学部保健学科 ・819-7947
勝野 久美子 看護学研究奨励 担当	看学27	特定医療法人春回会長 崎北病院
書記 高橋 真弓 中尾 恵理子	看学25 医短3	看護部・819-7522 医学部保健学科 ・819-7946
会計 田辺 裕子 石田 紀代美	看学23 看学32	12階西病棟・819-7400 看護部・819-7931
監査 土屋 滋子 田添 京子	看学13 看学22	看護部・819-7520
学外理事 平湯 路子 鶴嶋 葉子 竹田 茂子 荒木 宣代 橋村 洋子 山口 則子 久松 千鶴香 松藤 由布子	看学6 看学7 看学8 看学10 看学14 看学15 看学26 保健学 科6	長崎市医師会専門学校 長与町役場
学内理事 福田 昌恵 中村 千代美 森藤 香奈子 (看護学研究 奨励担当) 張川 恭子 藏本 友恵	看学34 看学36 医短10 医短10 保健学 科1	手術部・819-7424 7階東病棟・819-7565 医学部保健学科 SCU・819-7392 救命救急センター ・819-7393